

東京大学史料編纂所
前近代日本史情報国際センター・画像史料解析センター共同研究会
2020年10月12日(月)

史料紙研究の最新手法と成果

渋谷 紗子

(前近代日本史情報国際センター)

Ayako Shibutani: New Approach to Japanese Historical Materials
and the Current Results

<https://github.com/ashibuta/HI-CDPS_MTG20201012.git>で
スライド資料を公開しています



しぶ たに あや こ
渋谷 紗子

出身地

- 千葉県生まれ
- 大阪府(河内)育ち



学歴

- 関西大学文学部(学士)
- 関西大学大学院(文学修士)
- 英国University of Bradford(MSc.)
- 総合研究大学院大学(博士(文学), 2010.3)

研究テーマ

- 料紙の自然科学的研究
- 先史時代人の植物食文化と健康状態の復元

専門分野

- 考古科学
- 文化財科学

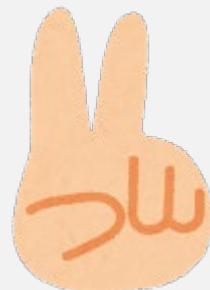
職歴(概略)

- 関西大学第一高等学校非常勤講師
- 広島大学総合博物館学芸職員
- 国立歴史民俗博物館特任助教
- 東京大学総合研究博物館特任研究員
- 東京大学史料編纂所特任助教

今日のお話



考古学・植物学的方法を応用した料紙研究
—なにを？どうやって？



2018・2019年度研究の概要
—松尾大社社蔵史料と陽明文庫所蔵史料



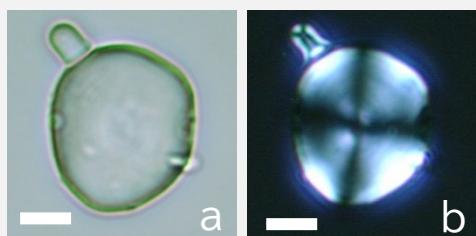
料紙研究のオープンサイエンス
—データの可視化・共有化から国際標準化へ

私は残存デンプン粒分析の専門家です

遺跡の土や遺物の表面からデンプン粒を見つけ、過去の植生や人間の植物利用を復元する分析

- ・ 海外は40年以上の研究の歴史
- ・ 2004年に日本考古学へ導入し、実践している日本唯二の1人

石器



同定不明 &
ウバユリ属

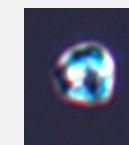
付着物は環境を探る手がかり
「植物を加工した」

人骨の歯石

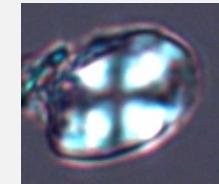


中国の遺跡(約7500~4000年前)から出土した人骨の歯

穀物や堅果類を食べた

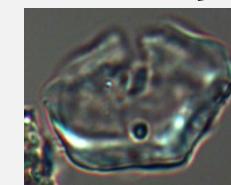


イネ属

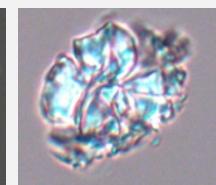


コナラ属

加熱調理した植物を食べた



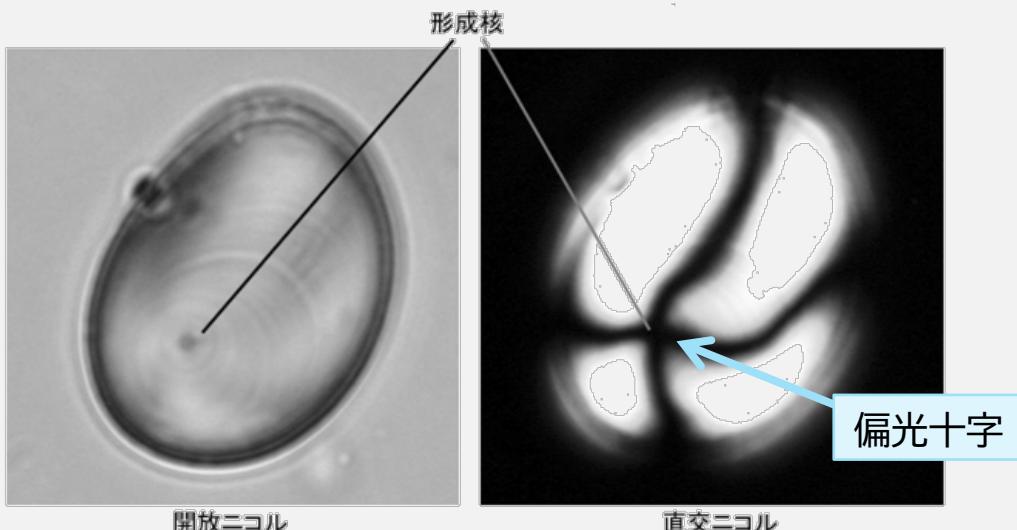
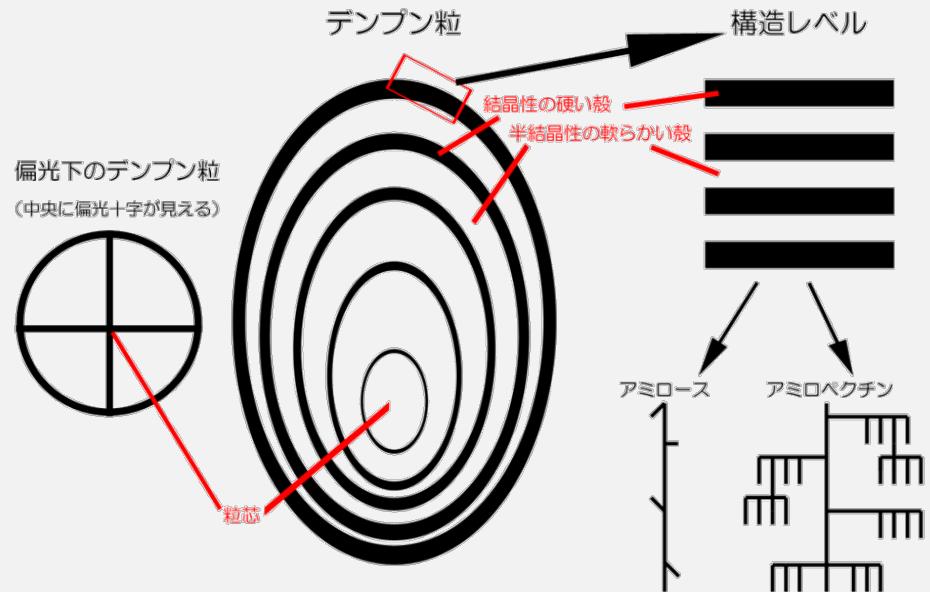
膨張



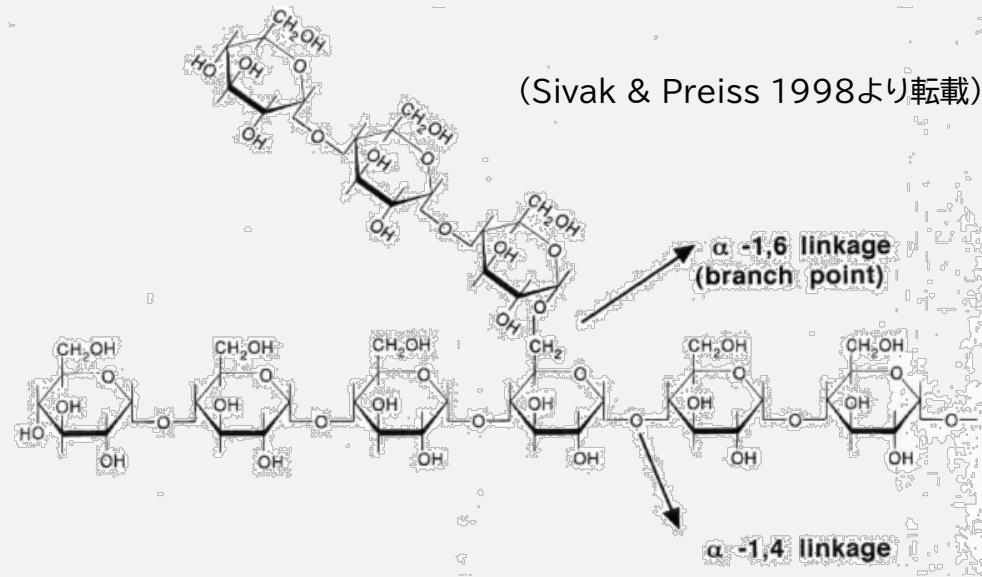
破碎

古代人の歯石はタイムカプセル
「植物を食べていた」

デンプン粒の特徴



*開放／直交ニコルは顕微鏡による撮影方法



- 高等植物の種子や果実, 茎(幹), 葉, 根などに貯蔵
- 植物のエネルギー源, 安定した化学構造をもつ
- 植物種によって形態がちがう
- 品種による形態の差異はない
- 最小は約 $1\mu\text{m}$ ($1/1000\text{mm}$)
- どのような環境でも何千年もの間残る(考古学で利用)

種(species)とは

生物の分類体系



理科のヨウ素反応実験で使われるジャガイモは



界:植物界 Plantae
被子植物 Angiosperms
真正双子葉類 Eudicots
キク類 Asterids
目:ナス目 Solanales
科:ナス科 Solanaceae
属:ナス属 Solanum
種:ジャガイモ *Solanum tuberosum* L.

植物の種によってちがう = 最小の分類レベルでちがう

* 品種は種のバリエーションです

昨年の「カラダ拡大」ドリンク流行

タピオカミルクティー



タピオカパール



タピオカスター

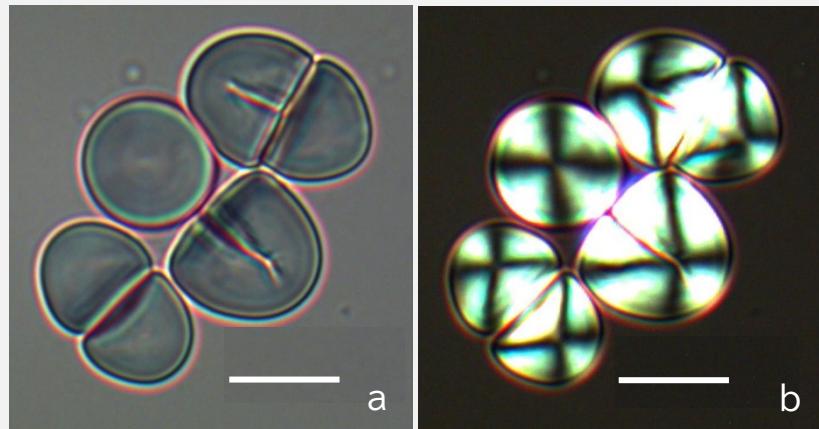


素材の植物はキヤッサバ *Manihot esculenta*



(2011年12月14日那覇市で撮影)

塊茎のデンプン粒



スケールは $10\text{ }\mu\text{m}$; $\times 400$; a:開放ニコル, b:直交ニコル

牛乳 + デンプン = お腹いっぱい

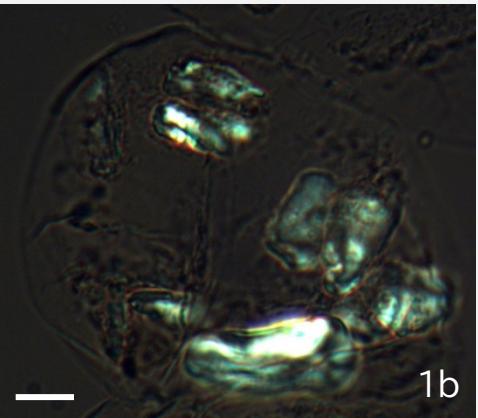
今年も「カラダ拡大」ドリンク流行…

バナナジュース



牛乳 + デンプン
= お腹いっぱい

バナナ外果皮



でか文字スコープ

目に優しくて使いやすい拡大鏡

Go Yoshida

『仕事効率化』内165位

★★★★★ 3.5, 49件の評価

無料。App内課金があります

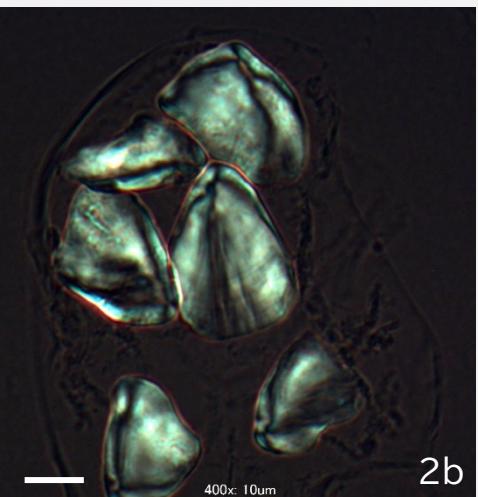
イソジンうが
い薬で染色



肉眼

10倍

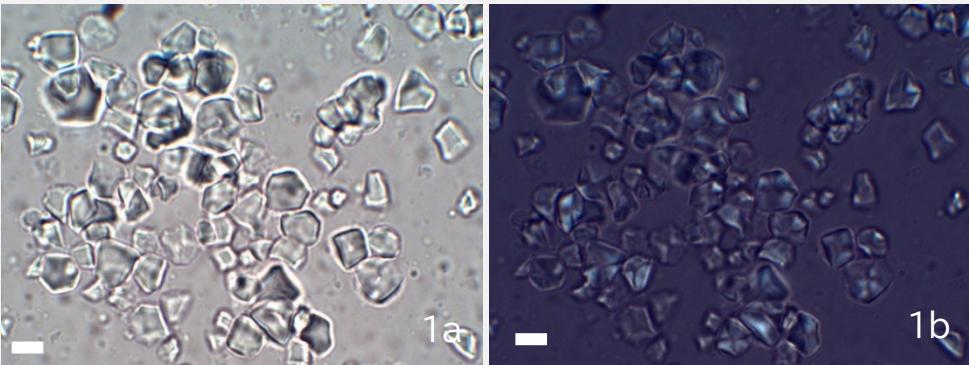
バナナ果実



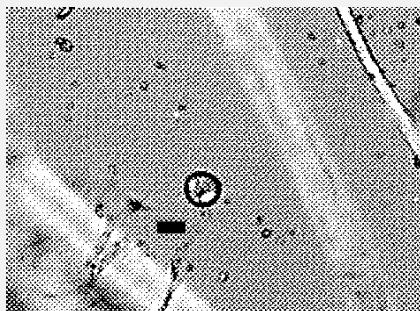
バーは $10\text{ }\mu\text{m}$ (10/1000mm); x400; a:開放ニコル, b: 直交ニコル

料紙に含まれるデンプン粒の候補

イネ(1000倍;スケールバーは5μm)



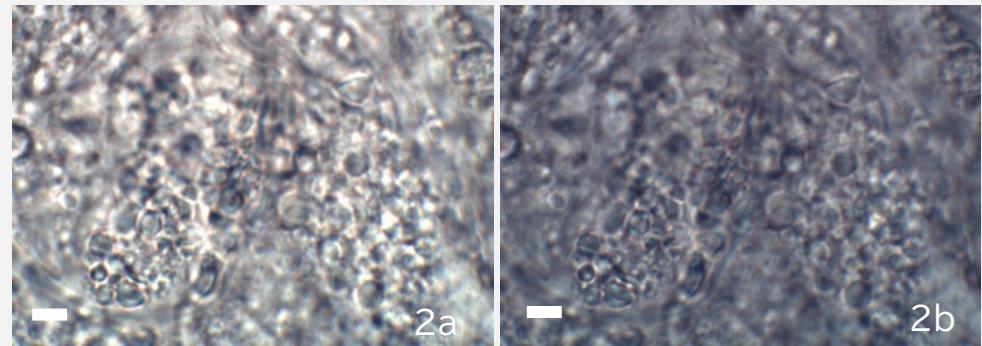
トロロアオイ



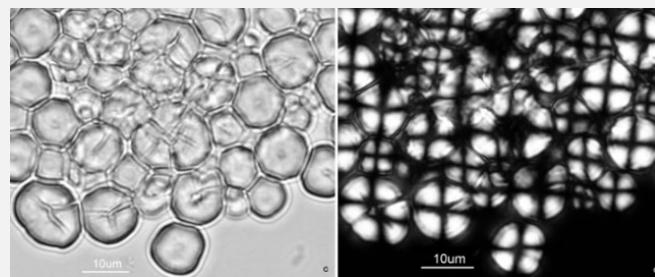
稻葉政満. 2002.「紙」『文化財のための保存科学入門』(京都造形芸術大学編), (株)飛鳥企画. 写真1より転載.
スケールバーは10μm

トロロアオイ以外はすべてOlympus BX53-33Z(簡易偏光装置付)で撮影
a:開放ニコル, b:直交ニコル

ダイズ(1000倍;スケールバーは5μm)



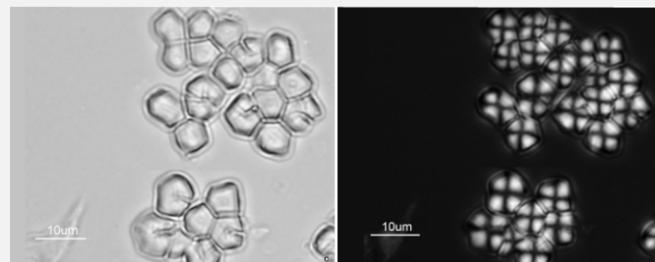
イネ以外の例:ヒエ



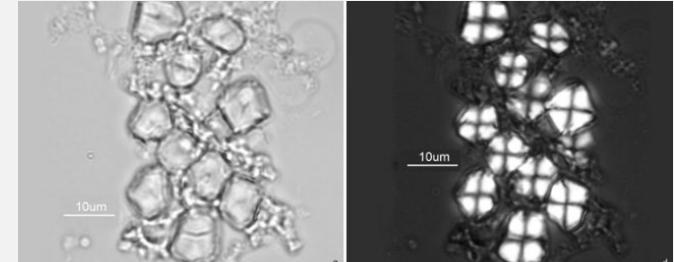
大橋有佳氏(元興寺文化財研究所)によるラマン分光分析では、豆糊はダイズの可能性が指摘される

ヒエ, アワ, キビは400倍
スケールバーは10μm

イネ以外の例:キビ



イネ以外の例:アワ



既存の料紙研究における課題

(1) 研究者の経験則による報告が多い

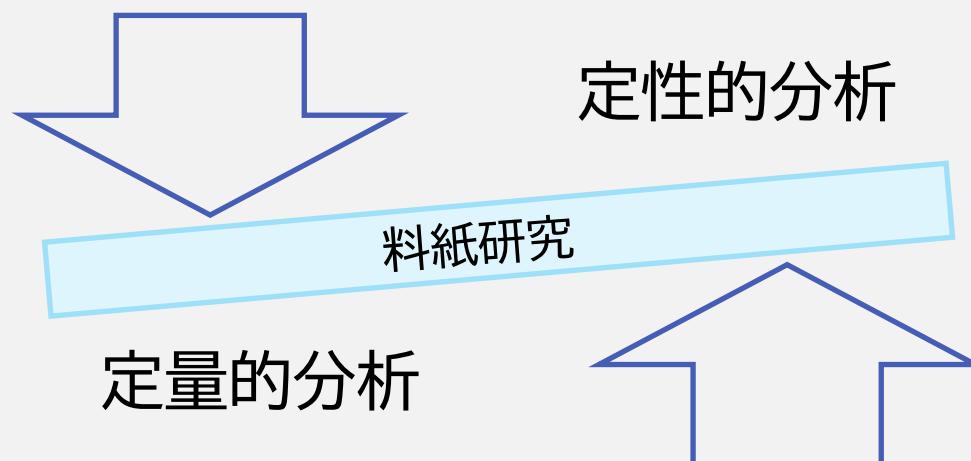
- 既存の顕微鏡撮影では撮影箇所の表記無し
- 画像にスケールを入れることが少ない

} 第三者の再検証が困難
(再現性が担保されない)

(2) 植物学的・鉱物学的な検討結果が提示されていない

- 「米粉の粒子あり」と報告 → イネ以外は存在しない?
- 炭酸カルシウム, カオリンなどの記載なし → 鉱物学的検討はしない?

(3) 分析データの数値化・共有化が行われていない



車の両輪のように
両方が必要ではないか?



私の強み

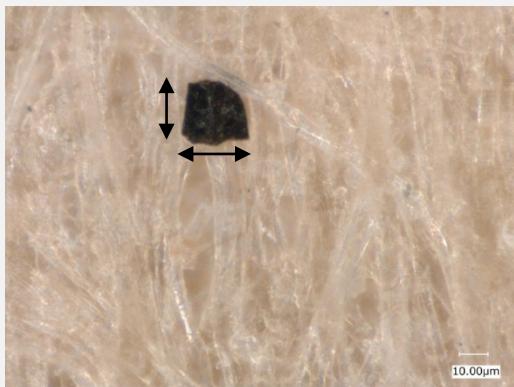
考古学・植物学の方法論を使おう

基盤にする考え方

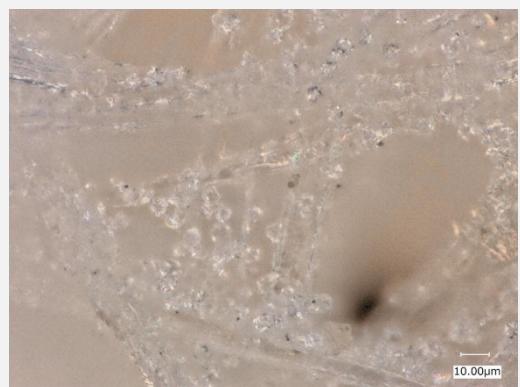
モノから歴史を考える
=考古学の手法

植物から環境を考える
=植物学の手法

2. 料紙構成物の数値化(客観性・再現性)

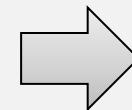


サイズの計測



含有量の計数

1. 植物性物質の同定



デンプン粒からイネと
同定(米粉と確定)

3. 分析データの共有化

紙分析データ														
ファイル	表示	導入	表示形式	データ	ツール	アドオン	ヘルプ	紙分析-4列選択						
A		B		C		D		E	F	G	H	I	J	
1	資料番号	資料名	資料詳細1	資料詳細2	発掘	遺産	用日	標準化No.	写真ファイル名	標準	標準化ID(X cm)	備考		
2	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	1	300e-1	300	3			
3	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	2	190e-2	100	3			
4	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	2	600e-2	600	3			
5	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	3	190e-3	100	7			
6	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	3	300e-3	600	7			
7	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	4	190e-4	100	15.6			
8	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	5	190e-5	100	15.6			
9	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	6	190e-6	1000	15.6			
10	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	6	190e-6	100	3.5			
11	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	6	300e-6	600	3.5			
12	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	6	100e-6	1000	8.6			
13	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	7	190e-7	100	28.8			
14	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	8	190e-8	100	25.6			
15	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	9	190e-9	100	15.6			
16	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	10	190e-10	100	21			
17	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	10	290e-10	200	21			
18	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	10	500e-10	500	21			
19	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	11	190e-11	100	3.5			
20	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	11	200e-11	200	3.5			
21	H-63-415-10	後小切天茎後背	真接形葉状遺構灰黑色薄壁 (H-63-15)	直立葉状小形二十六四四背景葉 (後二十五葉)	芯丸印	1411	0730	12	190e-12	100	3.5			

プロジェクトメンバー

石川隆二
作物育種学



高島晶彦
古文書・歴史資料の修理



後藤真
人文情報学



小倉慈司
日本古代史, 史料学



天野真志
日本近世・近代史, 資料保存



野村朋弘
日本史



山田太造
データ工学



尾上陽介
日本古代史



科研費基盤研究(A) 「『国際古文書料紙学』の確立」(2019~2022年度)
科研費挑戦的研究(萌芽)「前近代の和紙の混入物分析にもとづく『古文書科学』の
可能性探索」(2018~2020年度)

国際共同研究メンバー



鍾國芳 Dr. Kuo-Fang Chung

- ・台湾・中央研究院生物多样性研究中心(Museum Director/Associate Research Fellow)
- ・植物分類学, 生物地理学
- ・2019年11月23日に料紙国際シンポジウムへ招聘
- ・2020年度～ カジノキ類の遺伝資源調査
Chung, 国府方吾郎(国立科学博物館), 石川, 渋谷



SEE COMMENTARY

A holistic picture of Austronesian migrations revealed by phylogeography of Pacific paper mulberry

Chi-Shan Chang (張至善)^{a,1}, Hsiao-Lei Liu (劉筱蕾)^{b,1}, Ximena Moncada^c, Andrea Seelenfreund^d, Daniela Seelenfreund^e, and Kuo-Fang Chung (鍾國芳)^{b,2}

^aDepartment of Natural Resources and Environmental Studies, National Dong Hwa University, Shoufeng, Hualien 97401, Taiwan; ^bSchool of Forestry and Resource Conservation, National Taiwan University, Taipei 10617, Taiwan; ^cCentro de Estudios de Zonas Áridas (CEAZA), La Serena 1720170, Chile;

^dEscuela de Antropología, Facultad de Ciencias Sociales, Universidad Academia de Humanismo Cristiano, Santiago 7500828, Chile; and ^eDepartment of Biochemistry and Molecular Biology, Facultad de Ciencias Químicas y Farmacéuticas, Universidad de Chile, Santiago 8380494, Chile

Edited by Patrick V. Kirch, University of California, Berkeley, CA, and approved September 10, 2015 (received for review February 15, 2015)

分析項目と基準を確定

史料の基本情報と顕微鏡撮影の情報

ID	Catalogue number (Barcode)	Resource name	Photo folder 1	Photo folder 2	Photo name	Shooting date	Collection name 1	Collection name 2	Resource year (AD)	Resource name (Japanese)	Resource year (AD)	Resource name (Japanese)	Quantity	Materia	Equipment	Magnification	Light (IR)
140	132(129)-38720	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38720	sakihisa38720-1	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 220 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Si
149	132(129)-38720	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38720	sakihisa38720-2	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 220 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Se
150	132(129)-38720	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38720	sakihisa38720-3	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 220 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Se
151	132(129)-38720	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38720	sakihisa38720-4	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 220 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Se
152	132(129)-38720	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38720	sakihisa38720-5	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 200 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Si
153	132(129)-38720	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38720	sakihisa38720-6	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 220 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Se
154	132(129)-38721	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38721	sakihisa38721-1	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 220 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Se
155	132(129)-38721	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38721	sakihisa38721-2	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 220 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Se
156	132(129)-38721	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38721	sakihisa38721-3	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 220 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Si
157	132(129)-38721	近衛朝久・清麿	132(129)sakihisa	38721	sakihisa38721-4	2019/6/24	源の文庫	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	1通	コラフ	Dive-Refel-0 (H 220 下部) セット、光源別、反射光遮光板、遮光ビント	T	Se

構成物の情報

ID	Catalogue number (Barcode)	Resource name	Photo name	Component outline	Components total	Component total 2	Paper length (mm)	Paper width (mm)	Paper weight (g)	Area (cm ²)	Quantity/Area	Quantity/Area × total	MR_Avg Quantity/Area	Starch-quantity (grain)	Starch-quantity (grain) total	Starch-quantity / Area
2	11-351	伊勢守・清麿	date193-1	植物標本2枚	15	1	42	62.2	19.65	2612.40	0.0557			0		
3	11-351	伊勢守・清麿	date193-2	デンプン粒	18	1	42	62.2	19.65	2612.40	0.0569			3		
4	11-351	伊勢守・清麿	date193-3	デンプン粒	34	1	42	62.2	19.65	2612.40	0.0591			17		
5	11-351	伊勢守・清麿	date193-4	デンプン粒	29	1	42	62.2	19.65	2612.40	0.0511			8		
6	11-351	伊勢守・清麿	date193-5	植物標本2枚	21	1	42	62.2	19.65	2612.40	0.0531			0		
7	11-351	伊勢守・清麿	date193-6	デンプン粒	19	1	42	62.2	19.65	2612.40	0.0536			0		
8	11-351	伊勢守・清麿	date193-7	デンプン粒	22	1	42	62.2	19.65	2612.40	0.0581	0.0570	0.0026	0	28	
9	11-352	伊勢守・清麿	date193-1	植物標本2枚	5	1	42	62.8	18.96	2650.18	0.01919			0		
10	11-352	伊勢守・清麿	date193-2	植物標本2枚	8	1	42	62.8	18.96	2650.18	0.0139			0		
12	11-352	伊勢守・清麿	date193-3	植物標本2枚	5	1	42	62.8	18.96	2650.18	0.0127			0		
13	11-352	伊勢守・清麿	date193-4	植物標本2枚	8	1	42	62.8	18.96	2650.18	0.0120			0		
14	11-352	伊勢守・清麿	date193-5	植物標本2枚	9	1	42	62.8	18.96	2650.18	0.0134			0		
15	11-352	伊勢守・清麿	date193-6	植物標本2枚	15	1	62	62.8	18.96	2650.18	0.0557	0.0234	0.0033	0	0	
16	11-353	伊勢守・清麿	date193-1	植物標本2枚	15	1	36.7	58.9	14.41	2014.59	0.0784			0		
17	11-353	伊勢守・清麿	date193-2	植物標本2枚	21	1	37.1	54.3	14.41	2014.59	0.0744			0		
18	11-353	伊勢守・清麿	date193-3	植物標本2枚	17	1	36.1	58.9	14.41	2014.59	0.0784			0		
19	11-353	伊勢守・清麿	date193-4	植物標本2枚	15	1	37.1	54.3	14.41	2014.59	0.0774			0		
20	11-353	伊勢守・清麿	date193-5	植物標本2枚	27	1	37.1	54.3	14.41	2014.59	0.0794			0		
21	11-353	伊勢守・清麿	date193-6	デンプン粒	10	125	37.1	54.3	14.41	2014.59	0.0149	0.0620	0.0103	5	5	
22	11-354	伊勢守・清麿	date193-1	植物標本2枚	11	1	37.5	58.9	12.73	1993.28	0.0555			0		
23	11-354	伊勢守・清麿	date193-2	植物標本2枚	13	1	37.5	58.9	12.73	1993.28	0.0466			0		
24	11-354	伊勢守・清麿	date193-3	植物標本2枚	8	1	37.5	58.9	12.73	1993.28	0.0544			0		
25	11-354	伊勢守・清麿	date193-4	植物標本2枚	16	1	37.5	58.9	12.73	1993.28	0.0589			0		
26	11-354	伊勢守・清麿	date193-5	植物標本2枚	23	1	37.5	58.9	12.73	1993.28	0.0719			0		
27	11-354	伊勢守・清麿	date193-6	植物標本2枚	13	84	53.1	52.3	12.73	1991.25	0.0665	0.0422	0.0070	0	0	
28	11-355	伊勢守・清麿	date193-1	植物標本2枚	27	1	37.5	58.9	12.73	2020.07	0.0597			0		
29	11-355	伊勢守・清麿	date193-2	植物標本2枚	15	1	37.9	53.3	17.08	2020.07	0.0774			0		
30	11-355	伊勢守・清麿	date193-3	植物標本2枚	11	1	37.9	53.3	17.08	2020.07	0.0594			0		
31	11-355	伊勢守・清麿	date193-4	植物標本2枚	21	1	37.9	53.3	17.08	2020.07	0.0704			0		
32	11-355	伊勢守・清麿	date193-5	植物標本2枚	32	1	37.9	53.3	17.08	2020.07	0.0785			0		

- ID(研究で使用する個別番号)
- 各所蔵機関での番号
- 史料の名称, コレクション名
- 史料の作成年月日
- 史料点数
- 料紙の素材, 形態情報
- 撮影倍率
- 撮影箇所, 撮影光
- 偏光ポラライザー使用の有無

- 構成物の同定結果
- デンプン粒の有無と植物種
- 他の植物性物質
- 糊痕跡の有無と残留状態

調査方法を統一

使用機器



400倍も導入

Dino-lite R & D(研究開発)
セット
• 拡大倍率20~220倍
• 偏光ポラライザー付レンズ
 >>自分のPCIにUSB接続
顕微鏡用偏光歪検査セット

撮影2) 撮影箇所の数値による記録



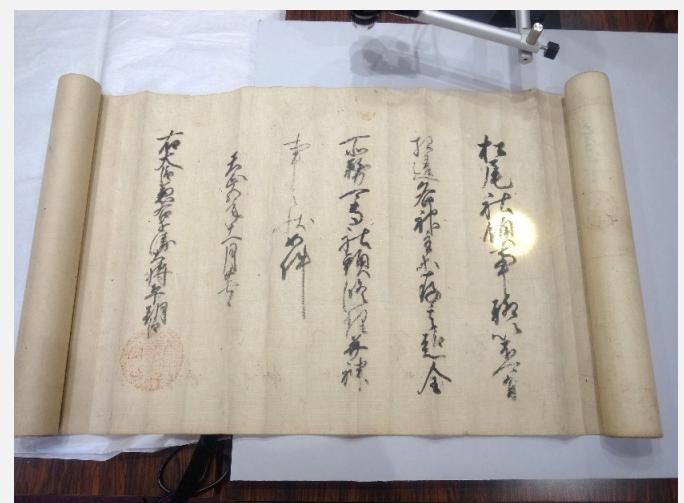
一紙の縦横(XY)で記録

撮影1) 一紙6~8箇所選択



構成物の密度を
比較(定点計測は
しない)

撮影3) 基本は透過光・偏光を使用

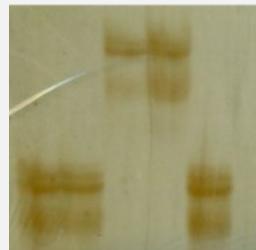


紙にあわせて反射／透過、偏光度を設定

成果を共有・公開



Tad3
1 2 3 4 5



DNAバイオマーカー

事例数の拡充と分析結果の国際標準化

ID	Catalogue number	Resource name	Photo name	Component outline	Starch-quantity (grain)	Starch-type Oryza	Starch-type Cereals	Starch-type Abelmoschus	Starch-type Hydrangea	Starch-type Others	Starch-type Glue	Minerals
2	uesugi-1	豊臣秀吉朱印状	toyotomi329-1	テンブン和5.美細粒.18枚紙.裏面13	5	0	0	0	0	0	0	0
3	uesugi-1	豊臣秀吉朱印状	toyotomi329-2	細胞組織織片18.枚紙片2	0	0	0	0	0	0	0	0
4	uesugi-1	豊臣秀吉朱印状	toyotomi329-3	テンブン和5.69.細胞組織織片2	69	69	0	0	0	0	0	0
5	uesugi-1	豊臣秀吉朱印状	toyotomi329-4	テンブン和45.細胞組織片12	45	45	0	0	0	0	0	0
6	uesugi-1	豊臣秀吉朱印状	toyotomi329-5	テンブン和16.細胞組織片2.裏	15	15	0	0	0	0	0	0
7	uesugi-1	豊臣秀吉朱印状	toyotomi329-6	細胞組織織片16.枚紙片1.裏面	0	0	0	0	0	0	0	0
8	uesugi-2	豊臣秀吉朱印状	toyotomi330-1	テンブン和53.細胞組織片7.裏	53	53	0	0	0	0	0	0
9	uesugi-2	豊臣秀吉朱印状	toyotomi330-2	細胞組織10.裏面54	0	0	0	0	0	0	0	0
10	uesugi-2	豊臣秀吉朱印状	toyotomi330-3	テンブン和28.細胞組織片16	28	28	0	0	0	0	0	0
11	uesugi-2	豊臣秀吉朱印状	toyotomi330-4	細胞組織12.テンブン和20.紙物2	20	20	0	0	0	0	0	0

Linked Dataや人文情報学的手法を導入

分析結果を情報基盤システムへ入れる

Linked Data

国際的な情報基盤システム



The International Plant Names Index

About IPNI

The International Plant Names Index (IPNI) is a database of names and associated basic information of living land plants, algae, fungi, and lichen, and of the nomenclatural status of other taxonomic ranks. It also includes names of fossil species, cultivars, and hybrids. Its goal is to facilitate the use of the index by researchers, herbaria, and other institutions for basic botanical research about plant names.

The index is freely available online at <http://www.ipni.org>. It is updated quarterly and is available in both English and Latin.

NEWS

- IPNI's Code available online.
- From January 2014 onwards, new publications in botanical journals will be assigned International Standard Serial Numbers (ISSNs) or electronic document numbers (EDNs) constituting their publication.
- For more details, please refer to our [public notice](#) in our journal section, where detailed criteria are also listed.
- To keep up-to-date with our latest news, many new links have been created from author records to the page [IPNI's Code](#).
- Some records now have direct to the prototype page in EDN. See an example.

(イメージ画像)

Integrated Studies of Cultural Research Resources

Developing A Methodology of Mixture Analysis to Determine the Origins of Japanese Historical Papers

Agako Shibata

National Museum of Japanese History

Abstract

This paper discusses the origins of papers composed of Japanese historical materials, focusing on paper composition and mixture. Many previous studies on paleography, history, and the scientific analysis of cultural properties have conducted their components, and tried to determine the origin of the paper composition. However, there has been no standard method of mixture analysis of the paper composition. Therefore, this study developed a methodology of mixture analysis using high-resolution digital microscopy. This study examined the microscopic features of Japanese historical papers, and the microscopic features of historical materials from daily life (cloth, wood, etc.) to determine the mixture ratio of each material.

Many surveys of Japanese historical materials are currently non-destructive, and paper can be observed with the transmitted and reflected lights of microscopes. Their microscopic features aim to examine morphological features such as the thickness, weight, and surface patterns of handicrafts in papermaking of paper. The formation of fine fibers and the arrangement of fibers in paper are important features for determining the origin of paper. Therefore, this study developed a methodology of mixture analysis using high-resolution digital microscopy. By observing the microscopic features of Japanese historical materials, the microscopic features of historical materials from daily life, and the microscopic features of historical materials from the environment, the microscopic features of Japanese historical papers, microscopic observation, mixture, and the origin of papers.

Previous studies have only analyzed the morphological history of Japanese historical materials. However, regarding the use of starch granules, starch granules from cereal materials from daily life (cloth, wood, etc.) to determine the mixture ratio of each material. Indeed, there are many studies on the microscopic features of Japanese historical materials, and the microscopic features of historical materials from daily life, and the microscopic features of historical materials from the environment, the microscopic features of Japanese historical papers, microscopic observation, mixture, and the origin of papers.

As a multidisciplinary study of the "Integrated Study of Cultural and Scientific Resources (ISCR)", which is currently conducted by the National Museum of Japanese History (NMNH), and the IPNI in Japan, this research analyzed Japanese historical documents using high-resolution digital microscopy. Its findings, if aimed to identify the generation of fibers and mixture of papers.

[<https://hdl.handle.net/2027/fulcrum.zc77sr415>]

出版済データはGitで公開(情報センターへ同時提供)

機関データベース



Hi-CAT Plus 検索

検索結果

2020年10月までの研究成果

松尾大社社蔵史料



養和1(1181)～万延1
(1860)年の史料を調査

「東京大学史料編纂所紀要」
第31号で成果の一部を報告

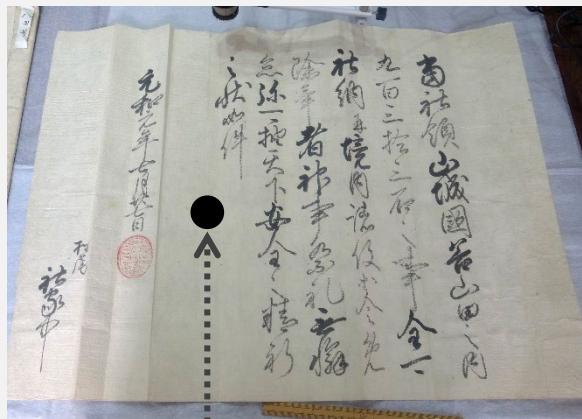
陽明文庫所蔵史料



「近衛植家消息」「近衛前久
消息」「近衛信尹消息」「伊
達政宗書状」等を調査

査読付学術誌へ10月中に投稿
予定(画像使用の許可済)

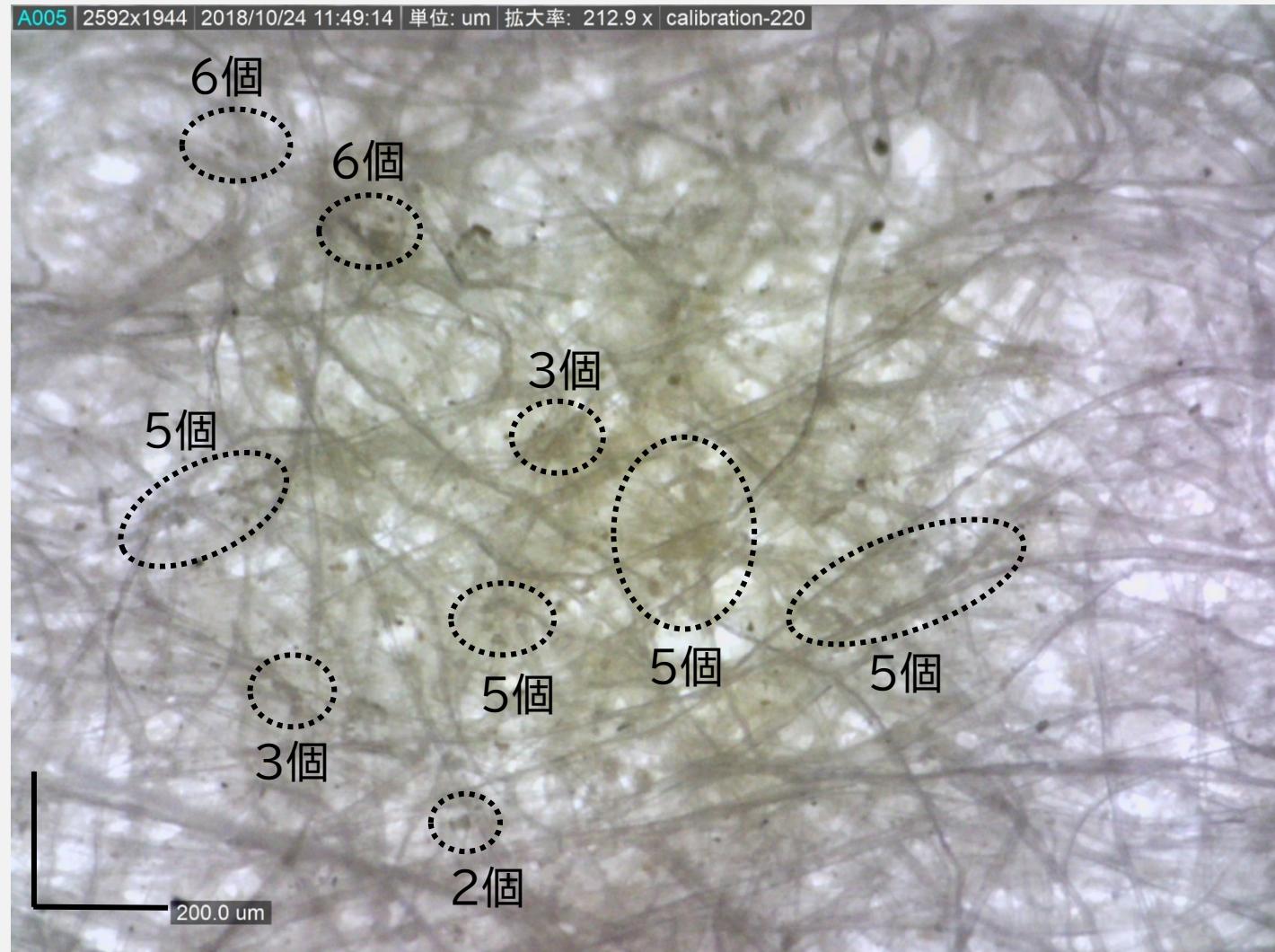
松尾大社社蔵史料 273「徳川家康朱印状」



撮影箇所:
左から4.2cm, 上から
22cm

画像内でイネのデンプン粒
40個, 細胞組織35片, 塵
を確認

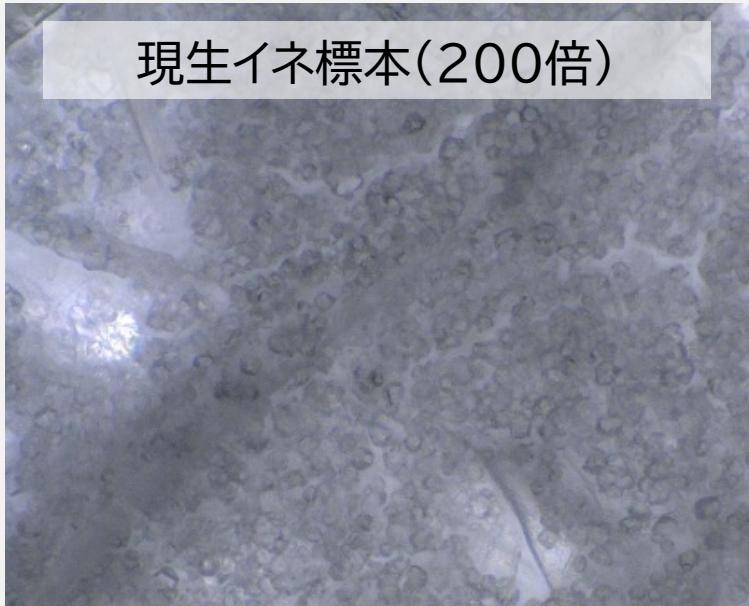
デンプン粒を見慣れて
いないと同定は難しい
かも…



コウゾ, 透過光で撮影(次のスライドは左下を拡大)

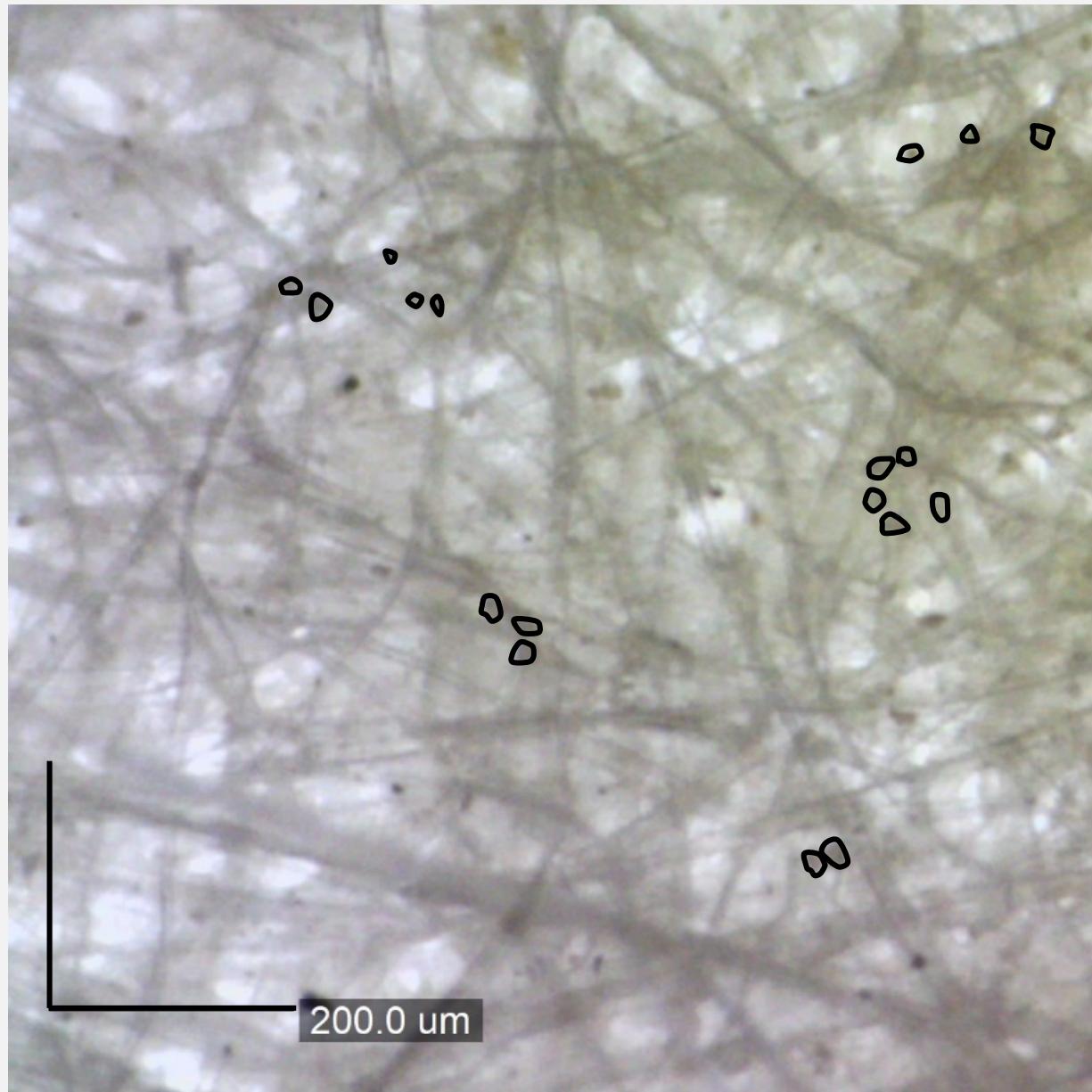
イネのデンプン粒はこんな形態

現生イネ標本(200倍)

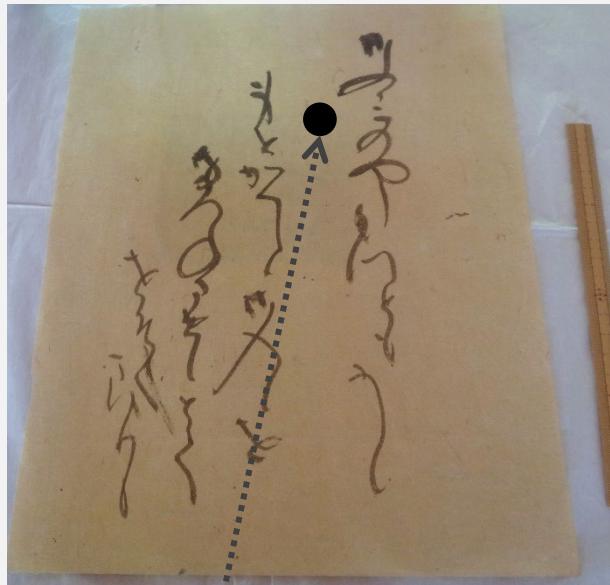


- ・ 同定時は画像を拡大して、縦径・横径(偏光十字)を計測
- ・ 偏光十字の確認は困難だが、六角形、粒径範囲6.57～9.795 μm、コウゾ纖維に絡んだ状態

>> イネと同定

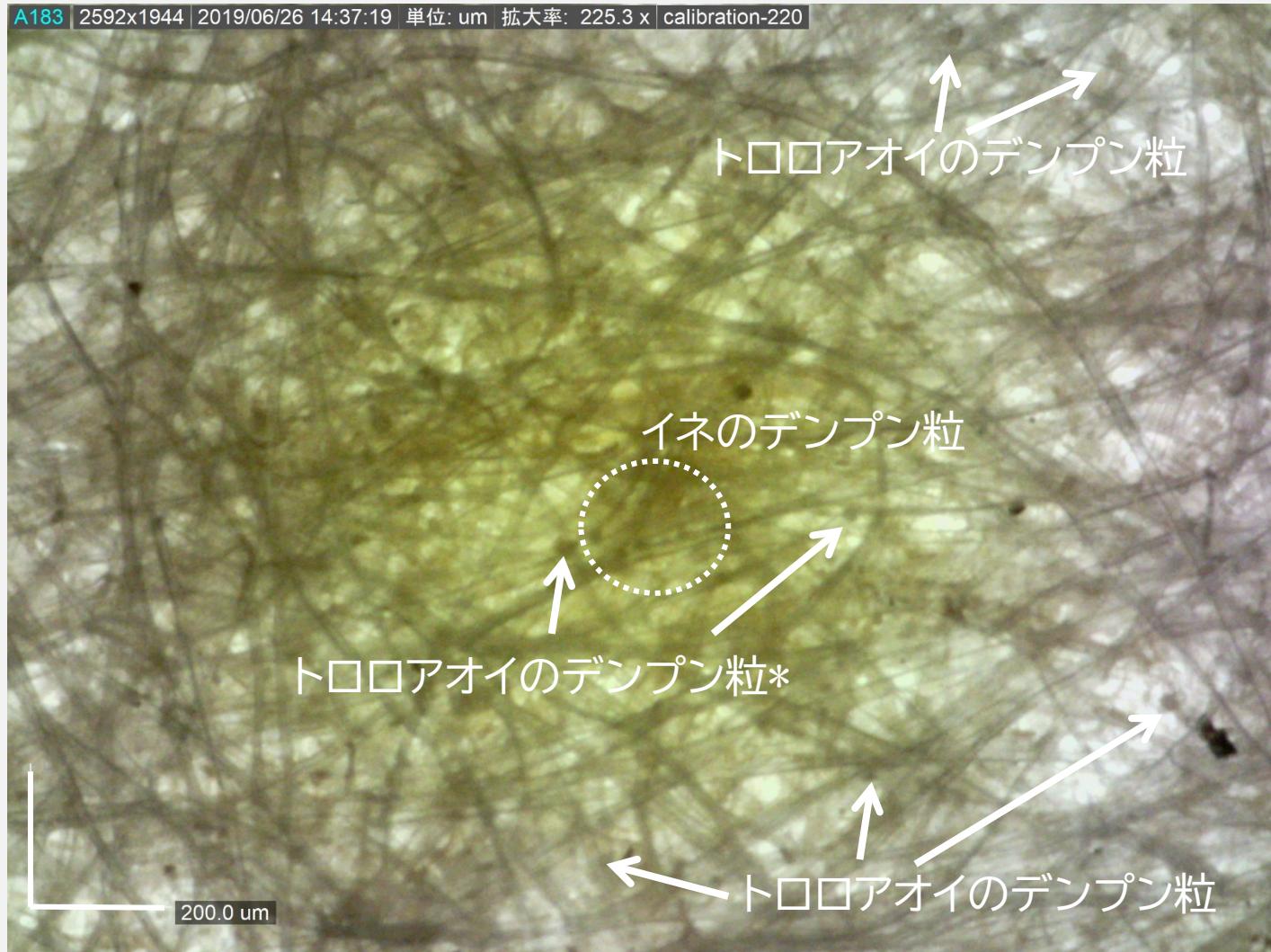


陽明文庫所蔵史料 47-2372「近衛信尹消息」



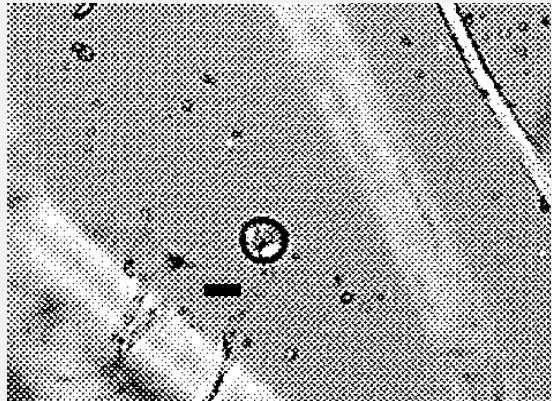
撮影箇所:
右から11.5cm, 下から
8.3cm(コウゾ, 透過光)

画像内でイネのデンプン粒
4 個(破線内), トロロアオ
イのデンプン粒8 個(矢
印), 細胞組織断片6 片を
確認



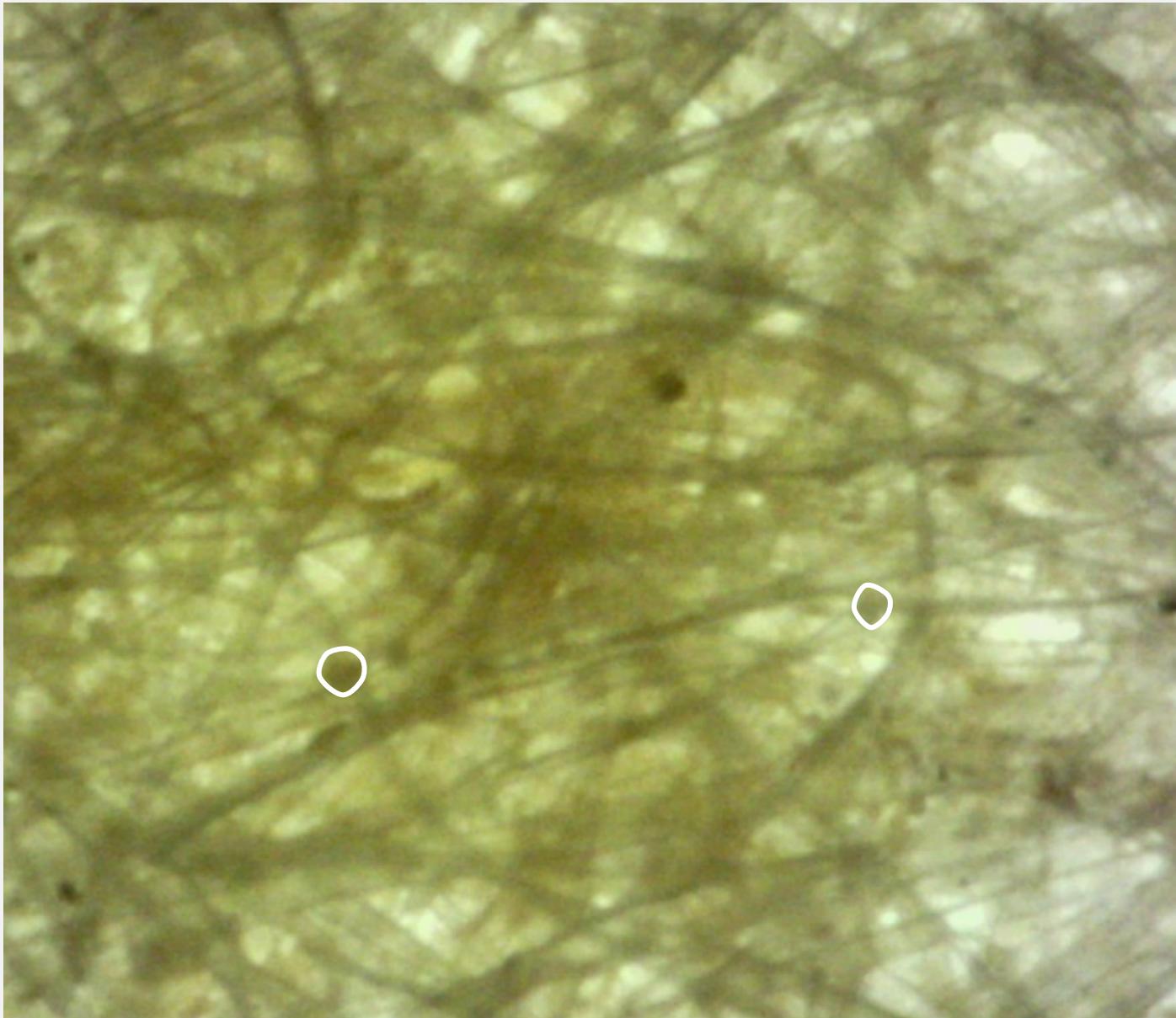
コウゾ, 透過光で撮影(次のスライドは*の箇所を拡大)

トロロアオイのデンプン粒はこんな形態

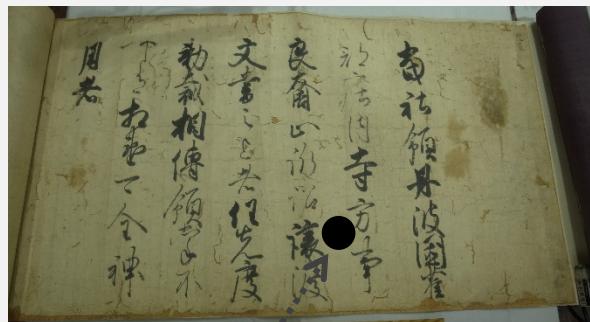


稻葉政満. 2002.「紙」『文化財のための保存科学入門』(京都造形芸術大学編), (株)飛鳥企画. 写真1より転載.
スケールバーは $10\text{ }\mu\text{m}$

- ・ 同定時は画像を拡大して, 縦径・横径(偏光十字を)を計測
- ・ 偏光十字の確認は困難だが, 円形, 粒径範囲
 $9.893\sim25\text{ }\mu\text{m}$
>> トロロアオイと同定

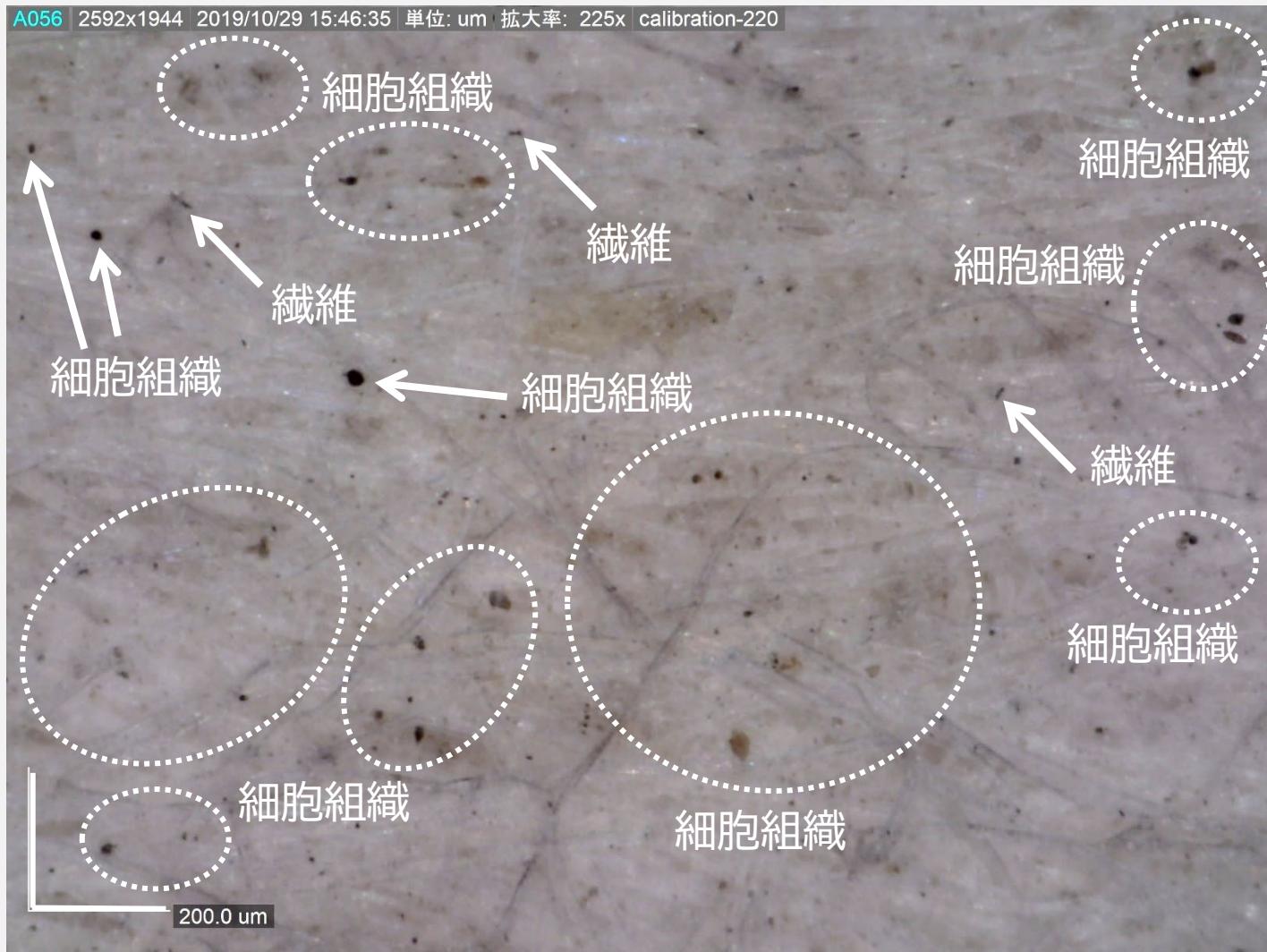


松尾大社社蔵史料 12「光巖院院宣」



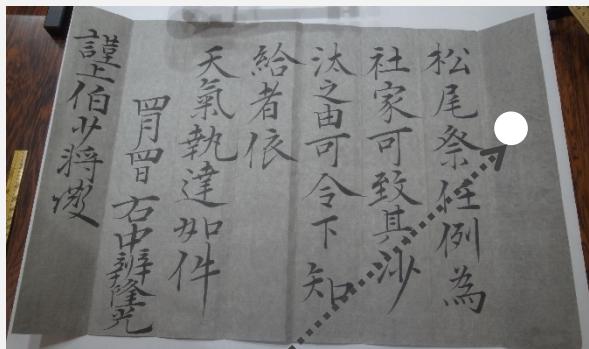
撮影箇所:
右から26.0cm, 下から
9.7cm

画像内で細胞組織の断片
65片(黒・茶色物質), 繊維断片3片を確認



裏打ちが厚いため反射光で撮影(コントラストを微修正)

松尾大社社蔵史料 333「仁孝天皇綸旨」



撮影箇所:
右から6.5cm, 上から
16.0cm

画像内で茶色鉱物(長石)
3個を確認
→アルカリ長石(カリウム・
ナトリウムが主成分)か
斜長石(カルシウム・ナト
リウムが主成分)の識別
は今後の課題



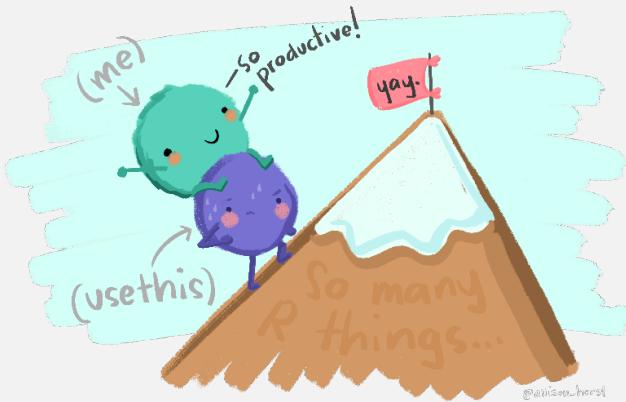
宿紙, 透過光で撮影

分析データを可視化しよう

緊急事態宣言中に勉強しました

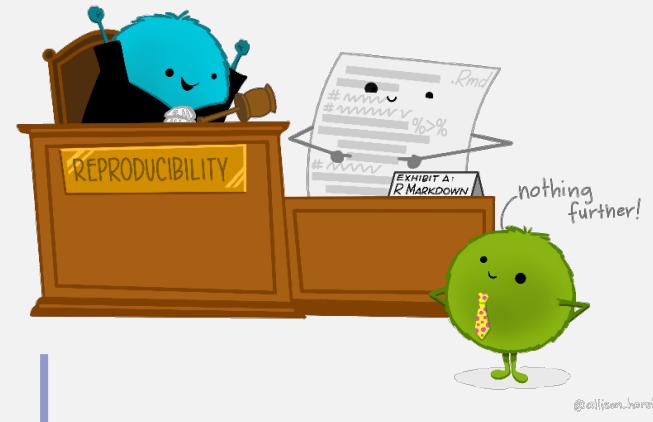
統計解析環境R／RStudio

2020年4月より、「考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロンonline」で一から学んでいます



料紙研究の公開性と透明性
を支え、データのアクセシビ
リティを向上したい！

料紙研究の オープンサイエンス



グラフ描画用パッケージggplot2や 統計解析の各パッケージを使用



Artwork by @allison_horst
(CC BY 4.0)

(1) 料紙サイズと構成物の量の相関?(無相関検定)

陽明文庫所蔵史料(コウゾ)

松尾大社は別の機会で

帰無仮説 H_0 :母相関は0である「調査史料では料紙面積と構成物の量に相関がない」

対立仮説 H_1 :母相関は0ではない「調査史料では料紙面積と構成物の量に相関がある」

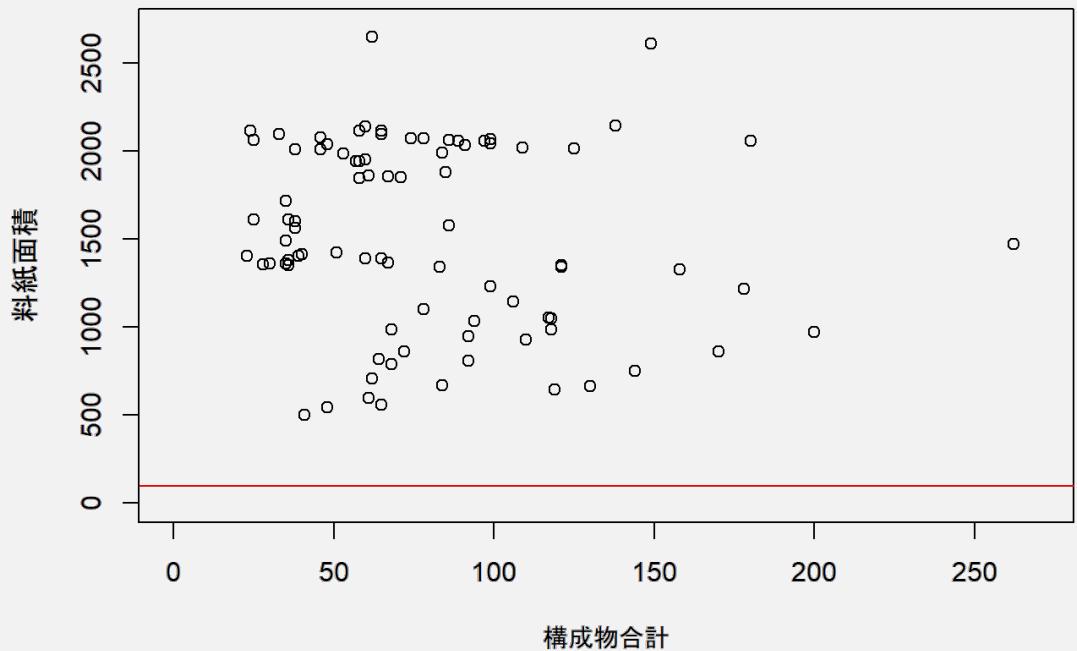
相関係数=-0.186486

母集団相関係数pに関する検定

- t値=-1.3249
- df(自由度)=83
- p-value(p値)=0.1888

p値で「結果が統計的に有意かどうか」
を判断

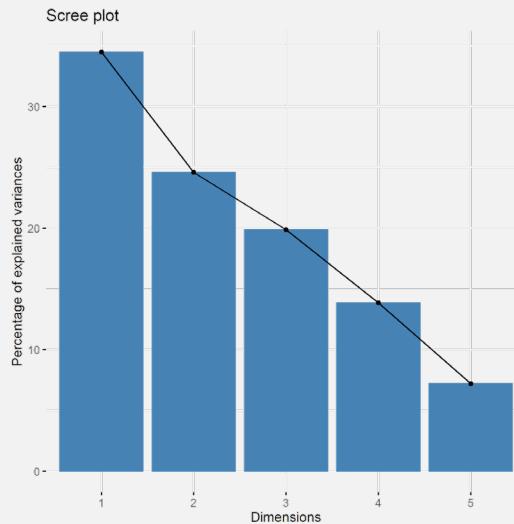
- 有意水準0.05(5%)より大きい
- 「料紙面積」と「構成物の量」の間に
は有意な相関がない



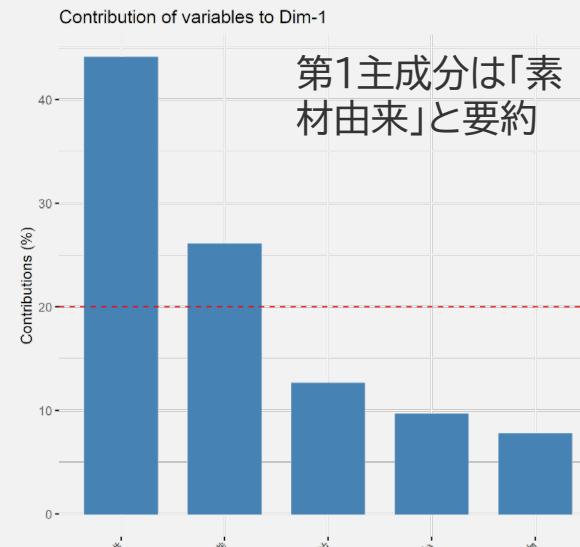
「相関はない」ことが統計的に実証された

(2) 構成物全体の特徴は？(主成分分析)

松尾大社社蔵史料(コウゾのみ抽出)

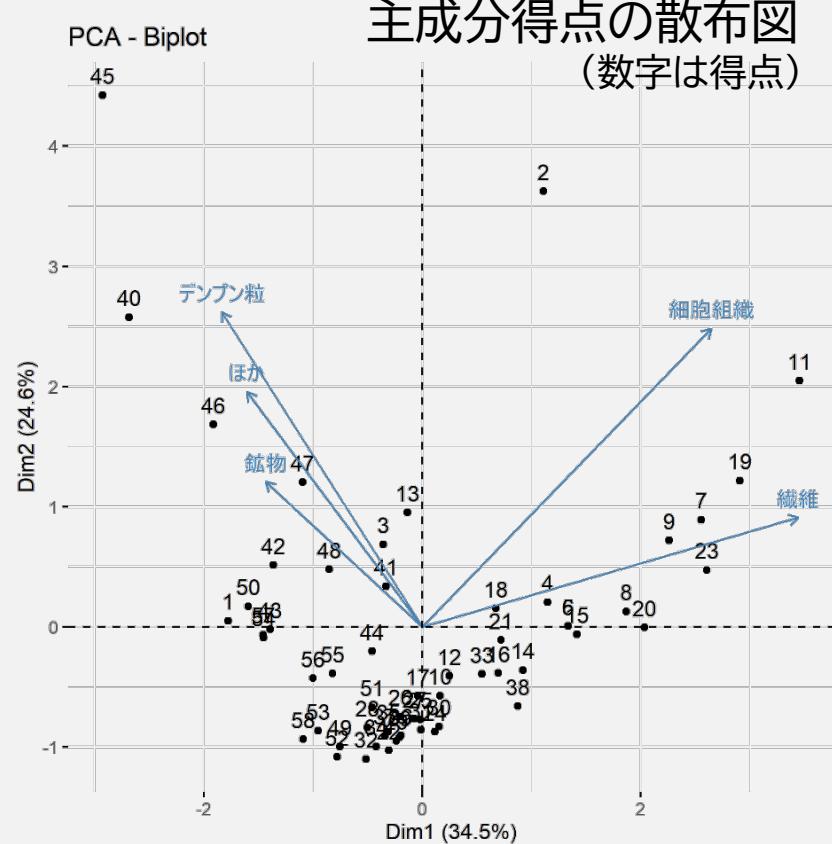


第1主成分が34%超、第2主成分と合わせて90%近い



第1主成分は「素材由来」と要約

	主成分の分散	寄与率	累積寄与率
comp 1	1.7240043	34.480085	34.48009
comp 2	1.2290034	24.580068	59.06015
comp 3	0.9940092	19.880184	78.94034
comp 4	0.6924212	13.848425	92.78876
comp 5	0.3605619	7.211238	100.00000

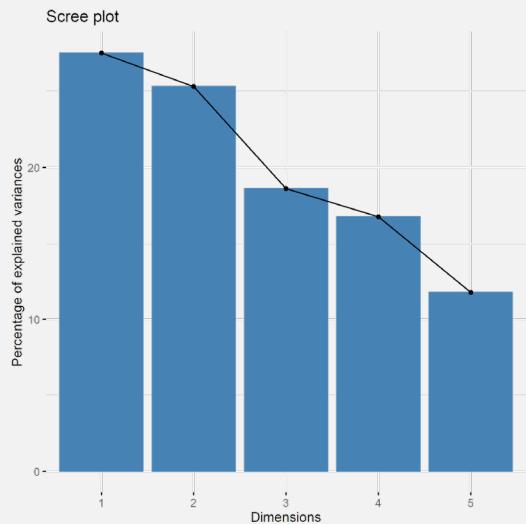


同じ変数の意味を示す2つに分かれる

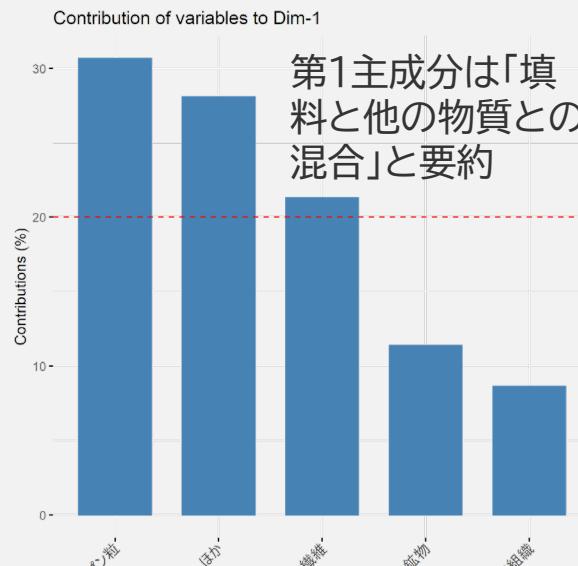
- 細胞組織と纖維は素材由来を示す
- デンブン粒・鉱物・ほかは填料を示す

(2) 構成物全体の特徴は？(主成分分析)

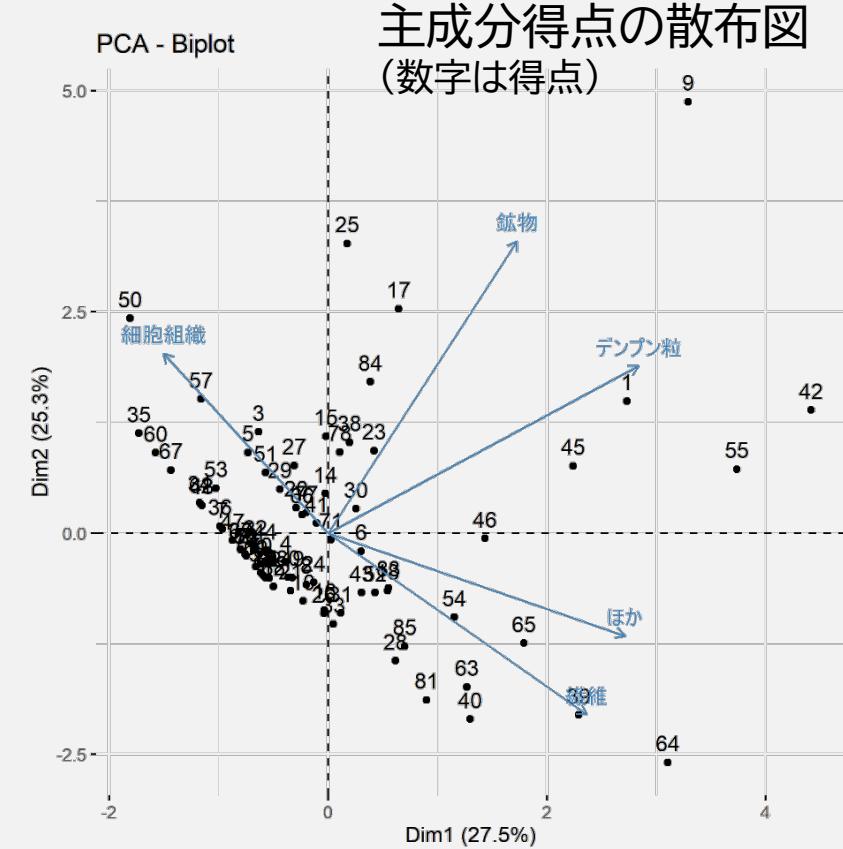
陽明文庫所蔵史料(コウゾのみ抽出)



第1主成分が27%超、第2主成分も合わせると80%近い



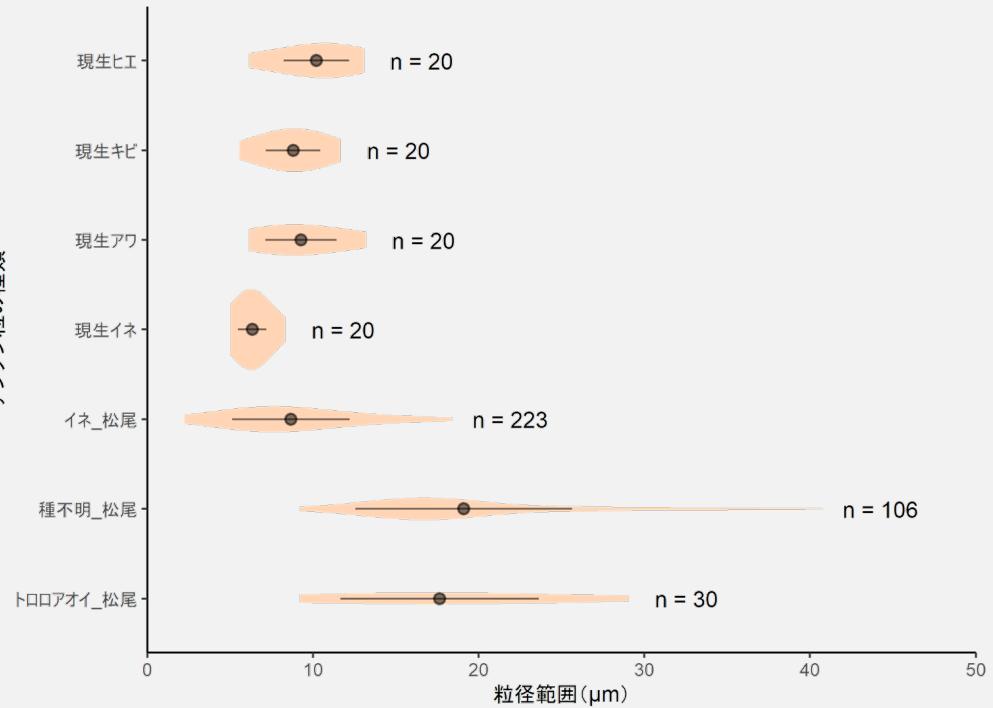
第1主成分は「填料と他の物質との混合」と要約



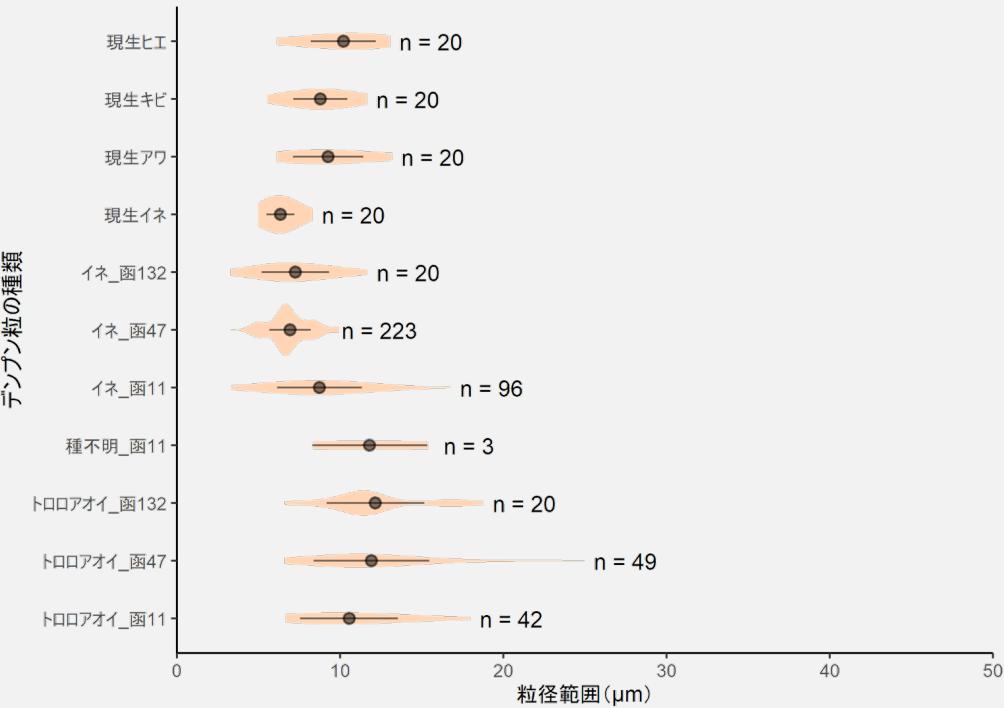
- デンプン粒と鉱物は填料
- 細胞組織, 繊維・ほかは異なる変数をもつ(素材由来だけではない)

(3) 料紙のデンプン粒の特徴は？(バイオリンプロット)

松尾大社社蔵史料63点中14点



陽明文庫所蔵史料89点中21点



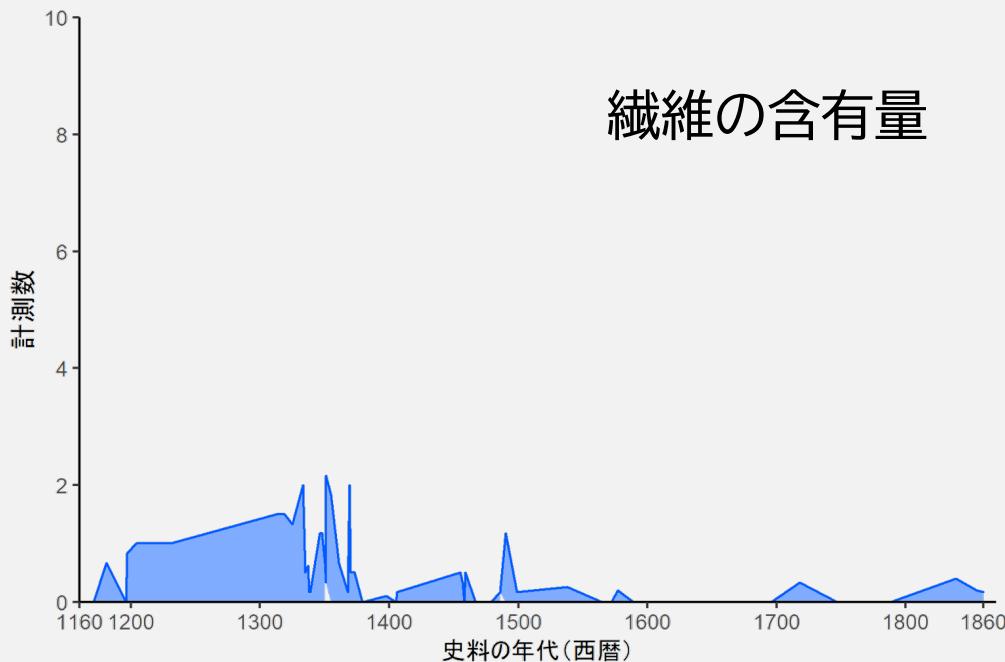
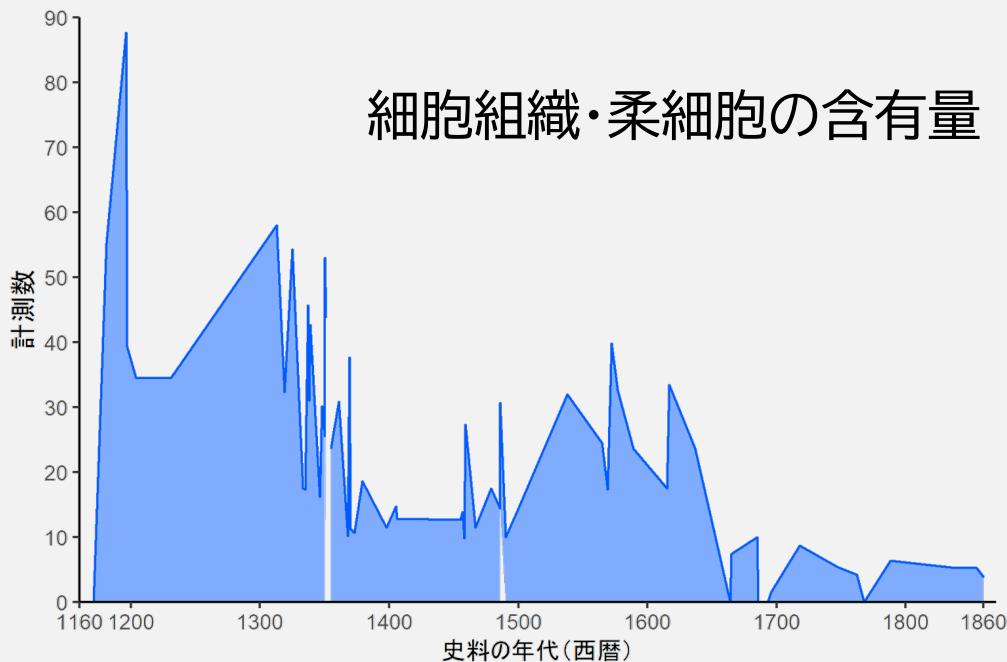
料紙のデンプン粒は粒径の分散が大きい

植物の生産地や当時の生育環境・条件に起因 → 料紙の生産地を示す?
「野生型と栽培型の間で大きさに差異」(Loy et al. 1992; 渋谷2010)

実施したコードや解析結果は<https://github.com/ashibuta/HI-CDPS_MTG20201012.git>で公開しています

(4) 構成物量の変化はある？(網掛け折れ線グラフ)

松尾大社社蔵史料63点の状況



時期による増減

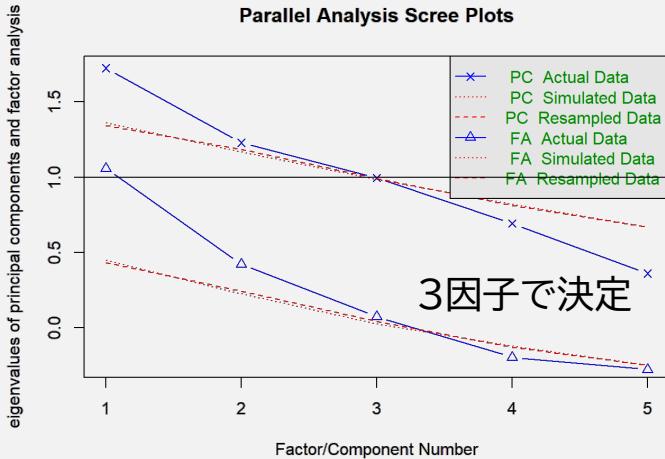
- 目録番号86「室町幕府奉行人連署奉書」が増加のピーク、以降は減少
- 目録番号26「徳川家綱朱印状」以降に減少が顕著

室町時代後半と江戸時代前半に料紙材料や製法の変化がある？

実施したコードや解析結果は<https://github.com/ashibuta/HI-CDPS_MTG20201012.git>で公開しています

(5) 構成物同士の相関関係は？(因子分析)

松尾大社社蔵史料(コウゾ)における料紙構成物の共通因子・相関関係



因子負荷量

	MR1	MR3	MR2
デンプン粒	0.02216235	0.46395200	0.2130674
鉱物	-0.04041092	-0.06896046	0.5434480
細胞組織	0.80277436	0.12666155	0.1189321
纖維	0.75713597	-0.16936664	-0.1628024
ほか	-0.04003187	0.56883444	-0.1576144

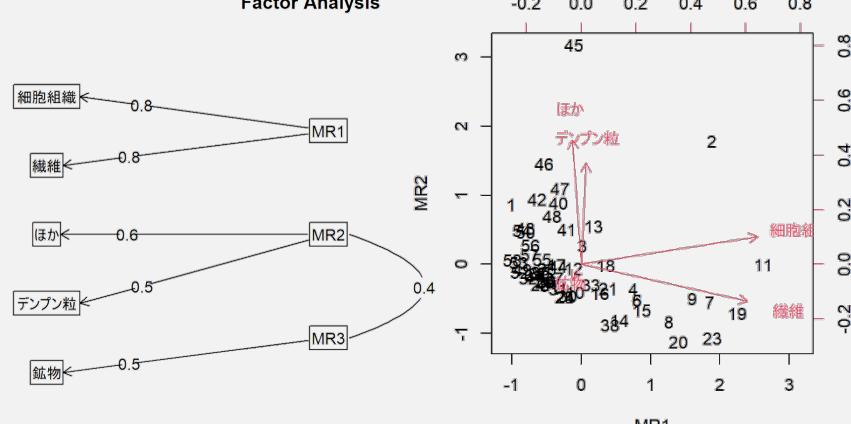
バリマックス解

	MR1	MR2	MR3
寄与	1.22	0.62	0.43
寄与率	0.24	0.12	0.09
累積寄与率	0.24	0.37	0.45
説明率	0.54	0.27	0.19
累積説明率	0.54	0.81	1.00

累積寄与率が0.5より小 >> データの拡充が必要

因子間相関

	MR1	MR2	MR3
MR1	1.00	-0.17	-0.16
MR2	-0.17	1.00	0.39
MR3	-0.16	0.39	1.00

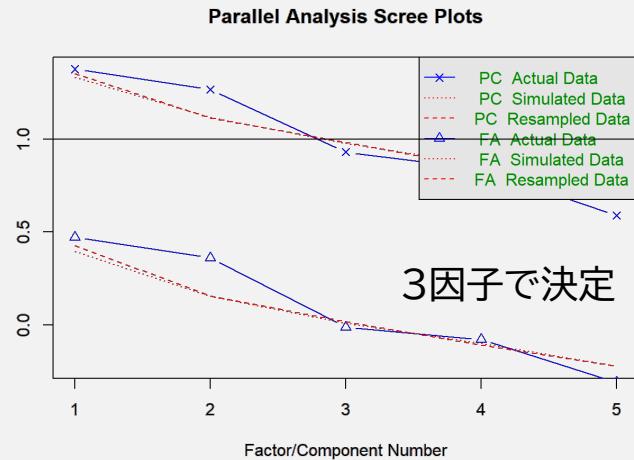


細胞組織－纖維, デンプン粒－鉱物－ほかが相関関係をもつ

(5) 構成物同士の相関関係は？(因子分析)

陽明文庫所蔵史料(コウゾ)における料紙構成物の共通因子・相関関係

eigenvalues of principal components and factor analysis



因子負荷量

	MR1	MR3	MR2
デンプン粒	0.01654569	0.79113716	-0.009188201
鉱物	0.92299697	0.01169930	0.008554870
細胞組織	0.18572833	-0.14466103	-0.163285306
纖維	-0.20071818	0.18314100	0.295960324
ほか	0.02345439	-0.01816758	0.737600749

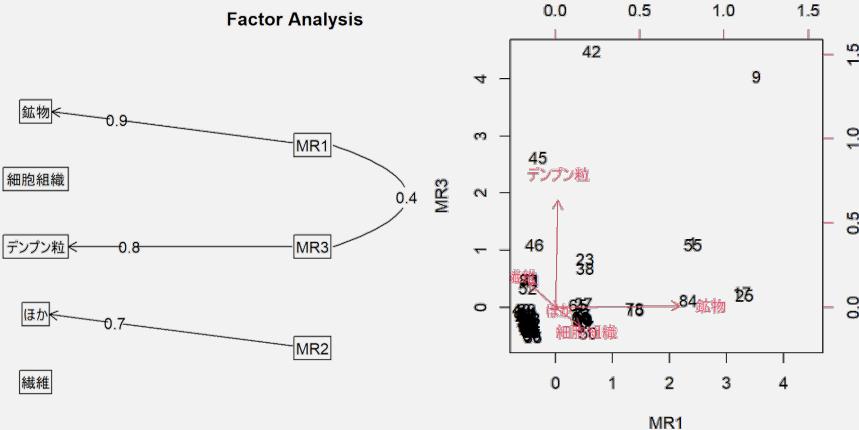
バリマックス解

	MR1	MR2	MR3
寄与	1.03	0.75	0.60
寄与率	0.21	0.15	0.12
累積寄与率	0.21	0.36	0.48
説明率	0.43	0.31	0.25
累積説明率	0.43	0.75	1.00

累積寄与率が0.5より小 >> データの拡充が必要

因子間相関

	MR1	MR2	MR3
MR1	1.00	0.33	0.08
MR2	0.33	1.00	0.14
MR3	0.08	0.14	1.00

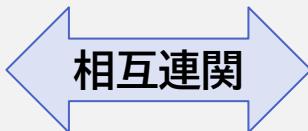


デンプン粒と鉱物が相関関係をもつ(調査史料の特徴)

まとめると…

国際共同研究

原本史料調査



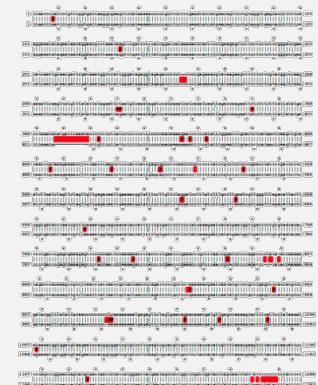
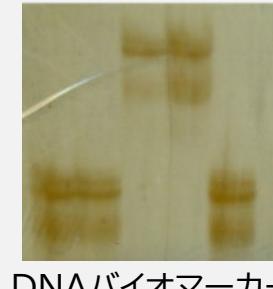
構成物の分析



DNA分析による成分特定

Tad3

1 2 3 4 5



紙媒体歴史資料のための
科学研究基盤の構築



研究成果の共有・公開
(オープンアクセス)



分析データの標準化など料紙の研究方法の情報化実践
(Rによる可視化)



歴史資料の修理・保存方法の検証と情報基盤への反映

料紙研究情報の国際標準化と東アジアにおける研究の展開



フィードバック

考古科学(残存デンプン粒研究の進展へ)

ご静聴ありがとうございました

